

2021年3月期 第1四半期決算に関する主なご質問

- Q: 決算説明資料(P15)で Q2/Q3 売上高の前期比予想が△15%となっているが、両期間を通して改善率は同じなのか？
- A: Q2 の売上高予想については最新情報を織り込んだ想定ですが、Q3 以降の見通しは現時点ではまだ精度が高いとは言えない状況です。6 月は特に北米自動車用ガラス事業などで想定を上回る回復がみられました。このため、今後さらに改善する可能性もありますが、下期以降の見通しはまだ不透明であり、継続的に注視しています。
- Q: 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関わる個別開示項目とはどのようなものか？ Q2 以降はどの程度発生するのか？
- A: この費用には COVID-19 影響による①休止期間の設備の維持費用、②休止期間中の工場従業員給与、③感染対策の清掃費用などが含まれます。Q2 以降の発生タイミングと規模は現時点で不明確ですが、年間ではおよそ 200 億円程度になるものと試算しています。
- Q: 決算説明資料(P16)で、緊急コスト削減プロジェクトにより約 100 億円を削減したとのことだが、今後 Q2 以降も継続して同額の効果が出るのか？
- A: 年間を通じての全社プロジェクトとして、社内では月次で進捗を管理しながら進めています。効果の発生は Q1 が最大となり、Q2 以降は通常生産レベルに回復していくにつれてコスト削減規模は縮小していくと想定していますが、年間の金額効果としてはさらに 100 億円以上を目指しています。
- Q: 今期は自己資本減少のリスクが高まっているが、財務施策をどのように考えているか？また A 種種類株式はどのように償還するつもりか？
- A: 当面は手元流動性の確保を重視しています。また A 種種類株式については自己資本の状況を見ながら、今後の財務体質の改善を踏まえて償還を進めていきたいと考えています。
- Q: 傷んだ財務体質を一気に改善させるために、ノンコア資産だけでなく、優良資産の売却まで踏み込むことを検討しないのか？コア事業の、例えば建築用ガラス事業の一部地域を売却するなどの判断はありえるのか？
- A: 財務体質改善に向けてあらゆるオプションは検討しています。事業資産売却については、まずはノンコア資産の売却が先決になります。一方、中長期の戦略である事業ポートフォリオ転換を図る中で、事業の将来性を勘案した見直しも行っていきます。

以上